

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	and you児童発達支援・放課後等デイサービス (児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 11日		2025年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2025年 12月 11日		2025 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○訪問先施設評価実施期間	年 月 日		年 月 日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)		(回答数)
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	5領域を意識した活動プログラムを組み、利用者に対して様々な経験を提供している	個別支援計画と活動を連動させ、学校生活や家庭での課題を踏まえてプログラムを調整している。調理活動は手指操作、段取り理解、協力、コミュニケーションなど一つの活動に複数領域を組み込み、成功体験を積めるように難易度調整している。視覚支援として、一日の流れを共有し見通しをもって活動できるように支援している。	適宜職員会議を実施し、活動内容を振り返り改善点を共有している。季節行事や、普段実施しにくい活動を取り入れ体験の幅を広げている。成功体験を積めるように段階的支援を意識して取り組んでいる。
2	こどもの安全を確保するための計画について周知する、安全の確保が十分に行われた上で支援を行っている。定期的に避難訓練など災害訓練を行っている。	月に1回避難訓練の実施。年間避難訓練の計画を立て、不審者・火事・地震など様々な想定をして実施している。外遊びや外出イベントの際には、子どもたちに対して指導を行い日常生活の中にも安全に生活できるように取り組んでいる。	利用者全員が避難訓練に参加できるようにスケジュール調整を行う。言葉だけの説明でなく、紙芝居や動画など様々な方法で説明を行い視覚的にもアプローチする。
3	定期的にSNS等で活動概要や行事予定、連絡体制などの情報を子どもや保護者に対して発信されているか	毎日SNSで一日の様子や流れを公開し保護者などに活動概要を発信している。保護者との連絡手段として、それぞれ連絡が取りやすい方法を選んでいる。保護者とも密に連絡を取り合い、家庭での様子・デイでの様子を共有しあっている。	保護者にとって分かりやすいように、発信や情報の周知の方法を保護者とともに模索していく。またSNSでの発信のみでなく、個々の成長を保護者と共有し支援に繋げられるようにしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者一人一人の特性に合わせた支援を行っているが、活動内容の効果や成長の変化についてより体系的に振り返り・評価する仕組みを充実させていく必要がある。	日々の支援や活動の実施に重点が置かれるなかで、活動内容が利用者の成長や目標達成にどの程度繋がっているかを体系的に振り返り評価する機会を増やしていく必要がある。	活動後の振り返りや支援記録を活用し、職員間で定期的に共有・検討する機会を設けることで活動の目的や効果を確認しながらプログラムの見直しや充実につなげていく。
2	職員配置は整っているが、支援の質をさらに高めるため、職員間での情報共有や支援方法の統一をより強化していく必要がある。	職員数が多く、利用者に対して様々な視点・方法でアプローチができる一方で支援方法や関わり方に差が生じる可能性がある。	職員会議やケース検討会議の機会を活用し、利用者の特性や支援方法について情報共有をおこなうとともに共通理解を深めることで支援の方向性を統一し、より質の高い支援につなげていく。
3	保護者とこまめな情報共有ができていない可能性がある。	送迎時のやり取りや連絡帳、保護者とのチャットを通じて情報共有は行っているが、日々の活動の意図や利用者の成長の変化について保護者に十分に伝えきれていない場合がある。	連絡帳やお便り、面談等を活用し、活動内容や支援の意図、利用者の様子をよりわかりやすく伝えることで、家庭と事業所が連携しながら支援を行える体制を強化していく。